

## 栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

中学校・英語科 vol.3

平成 18 年 1 月 栃木県総合教育センター

平成 16 年度教育課程実施状況調査（中学校第 2 学年段階の内容）のペーパーテスト調査結果から、今回は、「読むこと」の力を高める指導のポイントを示します。

### ペーパーテスト調査結果からみえた課題

- ・「読むこと」（30 問）について、本県の通過率の平均（66.2%）は、全国の通過率の平均（66.0%）とほぼ同程度となっています。ただし、本県の通過率が、全国の通過率を 5% 以上、上回っている問題数は 2 問です。
- ・出題のねらいごとにみると、「場面に応じた英語の使用法を理解する」問題や「英語を読んで対話の流れを理解する」問題では、通過率が 6 割に満たないものがあり、「英語を読んで概要・要点を理解する」問題では、4 割に満たないものがあります。

これらのことから、「読むこと」のうち、特に、概要の読み取りなどの「理解の能力」を高める指導について述べていきます。

### 「読むこと」の力を高めるために、言語活動や教材の工夫をしましょう

はじめに、「英語を読む」とはどういうことか、確認しておきましょう。学習指導要領には「英語」の「読むこと」について、次のような目標が示されています。

英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。

この目標のポイントは、「書き手の意向などを理解する」ことであり、表面的な文の意味を理解することではありません。しかし、『「英語を日本語に訳すことができた」＝「英語の文章の内容を理解することができた」』と考えている生徒も少なくありません。そこで、指導の際、「英語を読む」とはどういうことかを生徒に理解させ、「読むこと」の言語活動に取り組ませる必要があります。

表面的な文の意味を理解するのではなく、書き手の意向などを理解できるようにすることが大切だね。



また、「読むこと」の言語活動としては、「伝言や手紙などから書き手の意向を理解し、適切に応じること」や「物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること」などを行うよう示されています。先生方が授業でそれらの言語活動を行う際、生徒が意欲的に取り組むことができるよう、その内容や方法等について次のように工夫してみたいかがででしょうか。

## 1 教師が適切なモデルを示し、言語活動を行いましょう

1 ページの「ペーパーテスト調査結果からみえた課題」の中で述べた「場面に応じた英語の使用法を理解する」問題は、対話文中の（ ）内に入れるのに最も適切な文または語句を選ぶものでした。

本県の通過率 52.2%

Taro: Tom, I have a question.  
 Tom: ( )  
 Taro: I have a question!  
 Tom: Oh, a question. What is it?

- 1 Sorry, I don't know.
- 2 I have no question.
- 3 All right.
- 4 What did you say?

本県の通過率 54.0%

John: We did a good job.  
 Thank you for your help, Junko.  
 Junko: ( )  
 I like helping friends.  
 John: You're very kind.

- 1 That's OK.
- 2 I'm very tired.
- 3 That's all.
- 4 You're right.

また、「英語を読んで対話の流れを理解する」問題は、 内の英文を会話文の最も適切な箇所に入れるものでした。

(紙面の都合により一部改編)

本県の通過率 59.6%

Here you are.

Takuya: May I use your pen?  
 1

Keiko:  2  
 Sure.

3

Takuya:  4  
 Thank you, Keiko.

本県の通過率 54.8%

That's for your sister.

Mom: How do you like this cake?  
 Bob:  1  
 I like it, Mom.

2  
 Can I have some more?

Mom:  3  
 No, Bob.

4

これらの問題に正しく答えるためには、それぞれの問題中に示されている選択肢の文や語句、また  内の文の意味を理解できることはもちろんですが、「対話の流れを理解して適切な文や語句を選択する力」や、「与えられた英文を入れるべき適切な箇所を判断する力」も必要となります。これらは、コミュニケーション能力を支える談話能力(Canale & Swain,1980) に関わる力で

あると考えられます。談話能力が身に付いていなければ、相手の意向に適切に応じることができず、コミュニケーションが成り立ちません。



通常、授業では様々な言語活動が行われていますが、例えば、コミュニケーションを図る活動において、生徒はどのような対話をしているのでしょうか。生徒が発話している英文が文法的に正しくても、相手の言っていることに対してちぐはぐな応答になっているとすると、その生徒には、「相手の意向を理解して適切に応じる力」が身に付いていないということになります。

そこで、次のような方法で談話能力の育成を図ってみたいはいかがでしょうか。次の対話例は、動名詞を学ぶ授業で行うコミュニケーション活動で用いるものです。活動前に、教師は、適切な対話の流れになるように□内に例文を入れながらモデルを示し、「相手の意向を理解して適切に応じる」とはどういうことか生徒に理解させます。そうすることで、生徒は「相手の意向を理解して適切に応じる」ことを意識しながら、自分の考えや気持ちなどを表現していきます。その際、空欄には何も記入させず対話させるようにすることが大切です。そして、対話の後、話した内容を書いてまとめさせるようにすると、「書くこと」との関連を図った活動となります(第2回リーフレット参照)。このような言語活動を繰り返すことで、生徒は、談話能力はもちろん、表現の能力も身に付けていくと考えられます。

#### 生徒に示した対話例

A: Hi, B.  
 B: Hi, A.  
 A: What do you enjoy when you are free?  
 B: I enjoy < >ing ( ).  
 A: Oh, you enjoy < >ing ( ).  
 Question 1  
 B: Answer 1  
 I enjoy < >ing ( ) too.  
 A: Oh, you enjoy < >ing ( ) too.  
 Question 2  
 B: Answer 2  
 A: That's great! / Oh, me too. / I see...  
 B: Then, how about you, A?  
 What do you enjoy when you are free?

#### 生徒が自己表現した例

A: Hi, B.  
 B: Hi, A.  
 A: What do you enjoy when you are free?  
 B: I enjoy <listen>ing (to music).  
 A: Oh, you enjoy <listen>ing (to music).  
 What kind of music do you like?  
 B: I like J-pop.  
 I enjoy <read>ing (books) too.  
 A: Oh, you enjoy <read>ing (books) too.  
 Do you have a lot of books?  
 B: Yes. I have about fifty books.  
 A: That's great! / Oh, me too. / I see...  
 B: Then, how about you, A?  
 What do you enjoy when you are free?

## 2 段階的な指導を通して、概要や要点を理解する力を高めましょう

「ペーパーテスト調査結果からみえた課題」の中で述べた「英語を読んで概要・要点を理解する」問題には、次のようなものがありました。

本屋さんが開店したという次の英語の広告文を読んで、あとの問いに答えなさい。

### New Bookstore!

On January 18, a new bookstore opened in your town. We are open from 10:00 to 22:00, and we have a lot of books. You can find your favorite books quickly because you can use our computers. There are ten computers in the store.

We have some good services. For example, there are some chairs in the store, so you may sit and read books before you buy them. And if you spend more than 30,000 yen for books, we will give you a coffee ticket. You can use it at the coffee shop next to our store.

If you show us this paper in the first week, we will give you something nice. Please come and find good books!

(注) quickly : すぐに      service : サービス      if : もし～ならば  
spend : ～をつかう

(1) (省略)

(2) この店のサービスは何ですか。最も適切なものを1～4の中から一つ選んで、その番号を□の中に書きなさい。

<本県の解答状況>

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 1 来店すればコーヒー券がもらえる。       | 16.5%                                   |
| 2 本を買えば店内で読むことができる。      | 10.8%                                   |
| 3 本を買う前にイスに座って読むことができる。  | <input type="text" value="51.3%"/> (正答) |
| 4 30,000 円以上買うと図書券がもらえる。 | 20.2%                                   |

(3) 開店の最初の週にどんな特典がありますか。最も適切なものを1～4の中から一つ選んで、その番号を□の中に書きなさい。

<本県の解答状況>

- |                |   |
|----------------|---|
| 1 本を割り引いてもらえる。 | 12.9%                                   |
| 2 何かいいものがもらえる。 | <input type="text" value="50.4%"/> (正答) |
| 3 本を一冊もらえる。    | 11.0%                                   |
| 4 コーヒーを一杯飲める。  | 24.3%                                   |

上記の(2)と(3)の正答率が5割程度にとどまった原因を、生徒の解答状況から推測すると、問題文中の「サービス」や「特典」という言葉から、“30,000 yen”や“a coffee ticket”などの語に目がいてしまい、文章の内容を正確に把握せずに解答してしまった、と考えられます。

このような問題に正しく答えるためには、「英文を読んでその内容の概要や要点を正確に把握する力」が必要です。さらには、限られた時間で答えを導き出さなければならないということを考えると、正確さとともに速さも求められます。

次に、そのような力を生徒に身に付けさせることができる五つの活動を紹介します。これらの中には、先生方も知っている活動もあると思いますが、それぞれのよさを再確認し、ぜひ授業で実践していただきたいと思います。

#### 要点を理解する力を高める活動 1 : 事前に示された質問に答える

生徒に英文を読ませる際、あらかじめ英語の質問を示します。そうすることで、生徒は読み取りのポイントを事前に把握することができ、焦点を絞って英文を読むことができます。例えば、4 ページの文章を授業で扱うとすれば、次のような質問が考えられます。1～4の質問 (display question) の答えは本文中に示されていますが、5の質問 (referential question) は生徒自身が推測して答えなければなりません。このように、設定する質問を工夫することも大切です。

- 1 Why can you find your favorite books quickly?
- 2 Can you read books before you buy them?
- 3 What can you get if you spend more than 30,000 yen for books?
- 4 What can you get if you show the paper in the bookstore in the first week?
- 5 Why does the bookstore have good services?

#### 要点を理解する力を高める活動 2 : 要約文を完成する

キーとなる語や語句の部分的空欄にした要約文を示し、それを完成させるようにします。この活動では、生徒は示された要約文を読むことで概要を理解することができ、キーとなる語や語句を探しやすくなります。例えば、4 ページの文章を授業で扱うとすれば、次のような要約文が考えられます。

A new bookstore opened on ( ). It is open from ( ) to ( ).  
You can use ( ) when you want to find your favorite books. You'll find them ( ).  
There are some good services. You may sit on the chair and read books ( ) you buy the books. If you spend more than ( ) yen for books, you can get a ( ).  
If you show the paper in the first week, you can get ( ) too.

#### 概要を理解する力を高める活動 1 : トピックセンテンスを探す

トピックセンテンスとは、パラグラフの中心となる考えがまとめられている文なので、その文を読めばそのパラグラフの主題を理解することができます。そのため、それぞれのパラグラフのトピックセンテンスを探しそれらを理解することが、文章の概要を理解することに役立ちます。



## 概要を理解する力を高める活動 2 : タイトルを付ける

文章を読んで、その内容を表すのにふさわしいタイトルを付ける活動も効果的です。この活動では、文章の概要を理解していなければ、適切なタイトルを付けることはできません。長い文章を読むことは、生徒にとって負担が大きく、漫然と読んでいるだけの状況もみられます。しかし、タイトルを付けることを意識することで、意欲的に文章を読むようになり、内容の理解も深まります。生徒の実態に応じて、短めの文章を与えたり、選択肢を与えて適切なタイトルを選ばせたりするなどの工夫をすることも考えられます。

## 文脈を理解する力を高める活動 : 文章の結末を書き加える

結末の部分が空欄となっている文章を読み、それまでの内容と意味が通るように、空欄にくつつかの文を自分で書き加える活動です。この活動では、概要を理解するだけではなく、文脈を理解することが必要となります。「文脈を理解する」とは、前後の文のつながりが分かることであり、より深く内容を理解するということです。自分の発想や既習の知識を生かし、意味の通る文を書くことを通して、文脈を理解する力だけではなく、英文を書く力も高めることができます。

## 3 生徒が興味をもって「読むこと」に取り組める教材を利用しましょう

生徒に読ませる文章には様々なタイプのものがありますが、生徒が興味をもって読めるような内容のものを与えることが大切です。そうすることで、英語の文章を読むことへの抵抗感や負担感を軽減できるとともに、次の学習への意欲をもたせることができます。

例えば、次のような結末に落ちがある文章を与えることで、生徒は英語のユーモアに触れることができ、英文を読む楽しさを味わうことができます。

Dan was the doorman of a hotel in a big city. Every day, thousands of people passed his door, and a lot of them stopped and said to him, "What time is it, please?"

After a few months, Dan said to himself, "I'm not going to answer all these people any more. I'm going to go to a shop and buy a big clock. Then I'm going to put it up on the wall here."

"Now people aren't going to stop and ask me the time," he said happily. But after that, a lot of people stopped every day, looked at the clock and said to Dan, "Is that clock right?"

INTRODUCTORY STORIES FOR REPRODUCTION 1 L. A. Hill (一部改編)



平成 16 年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて作成した「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」も、今回が 3 回シリーズの最終となります。第 1 回(H17.5、冊子)、第 2 回(H17.9、リーフレット)とともにご活用ください。